

医療介護情報連携システム

# なかのメディ・ケアネットの本格活用について

在宅療養をしている患者さんの情報を医師や訪問看護師、ケアマネ等の専門職が共有するインターネット上のシステムが11月18日から本稼働

## なかのメディ・ケアネット があると...

- 状況の変化をすぐに共有してもらえる
- 写真などで正確な情報を共有してもらえる
- 担当が変わっても情報が引き継がれる

安心できる  
在宅療養の  
実現

※「なかのメディ・ケアネット」による情報共有は、専門スタッフのみで行うものであり、在宅療養者ご本人様（ご家族も含む）はご覧いただけません。

例



### 【問い合わせ】

地域支えあい推進室 地域包括ケア推進課長 高橋  
電話番号 03-3228-5403

# 1 背景①

加速する  
少子高齢化

ひとり暮らし  
高齢者の  
増加

認知症  
高齢者の  
増加

誰もが年をとっても、身体が不自由になっても、可能な限り住み慣れた中野区で、尊厳をもって最期まで生活することができる仕組みが必要

区と区民(関係団体含む)が一緒につくるアクションプラン  
「中野区地域包括ケアシステム推進プラン」を策定(2017年3月)

中野区の進める地域包括ケアシステムの柱

柱1:本人の選択／権利擁護

柱2:住まい・住まい方

柱3:健康・社会参加・就労

柱4:地域の見守り支えあい

柱5:介護・生活支援サービス

柱6:医療

柱7:相談、コーディネート機能及びケアマネジメントの質の向上

柱8:認知症対策

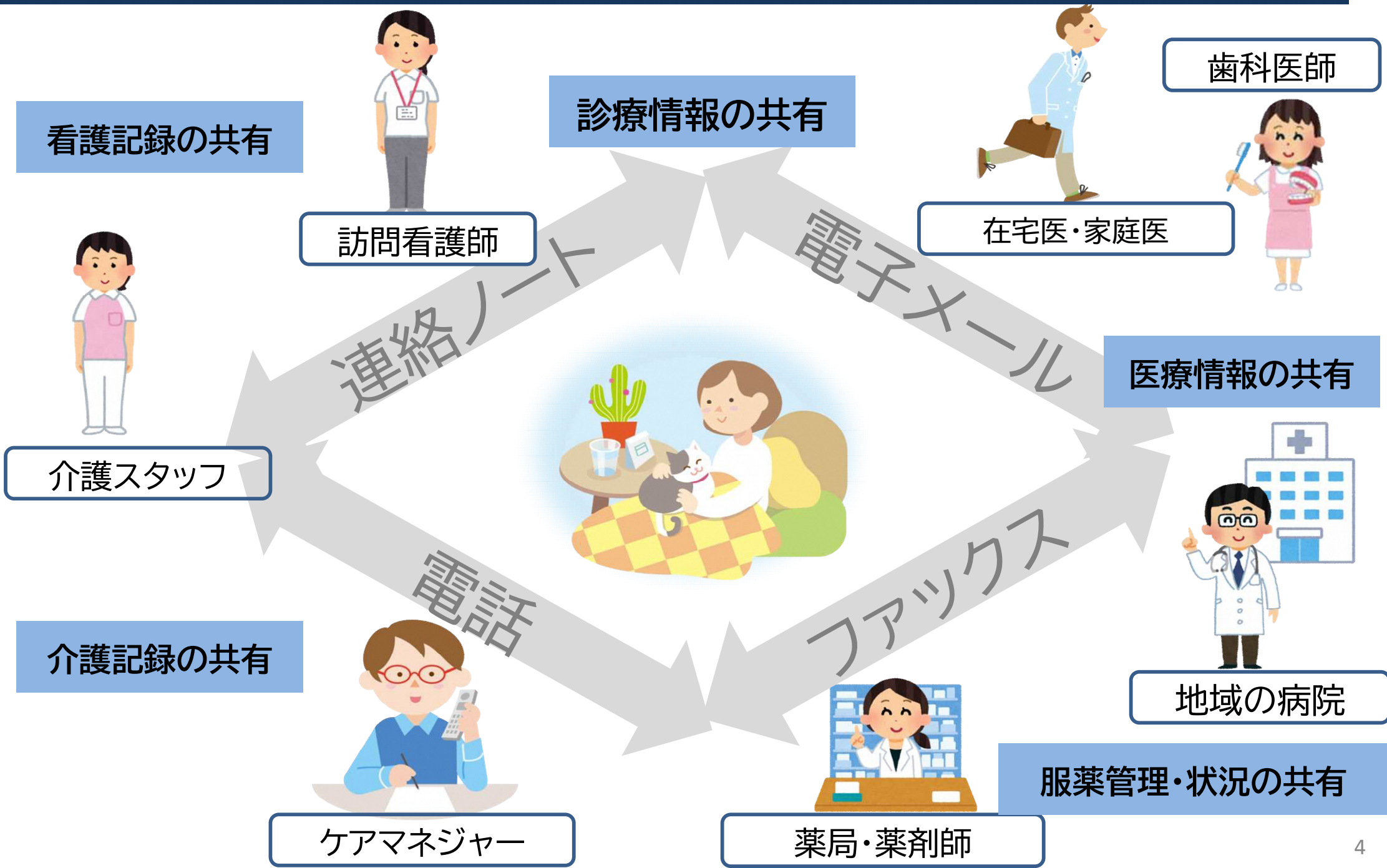
## 2 背景②

### 推進プラン 柱6:「医療」の構成

	施策	取り組みの方向性
1	在宅で必要な医療を受けられる体制の整備	<ul style="list-style-type: none"><li>①在宅医療に係る社会資源の確保</li><li>②退院後から在宅医療へ繋げる相談窓口強化</li><li>③関係者間で情報を共有するための基盤整備</li><li>④急変時に対応可能なサービスの確保</li><li>⑤地域で看取りまで行える態勢の整備</li></ul>
2	多職種連携の一層の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>①多職種間連携のための学習、スキル向上</li><li>②地域ケア会議を通じた医療・介護連携体制強化</li></ul>
3	区民への啓発、理解促進	<ul style="list-style-type: none"><li>①在宅療養、終末期医療、看取りについての啓発</li><li>②かかりつけ医療機関・薬局の推進、身近な健康相談機能の充実</li></ul>

システム導入の  
当面の狙い

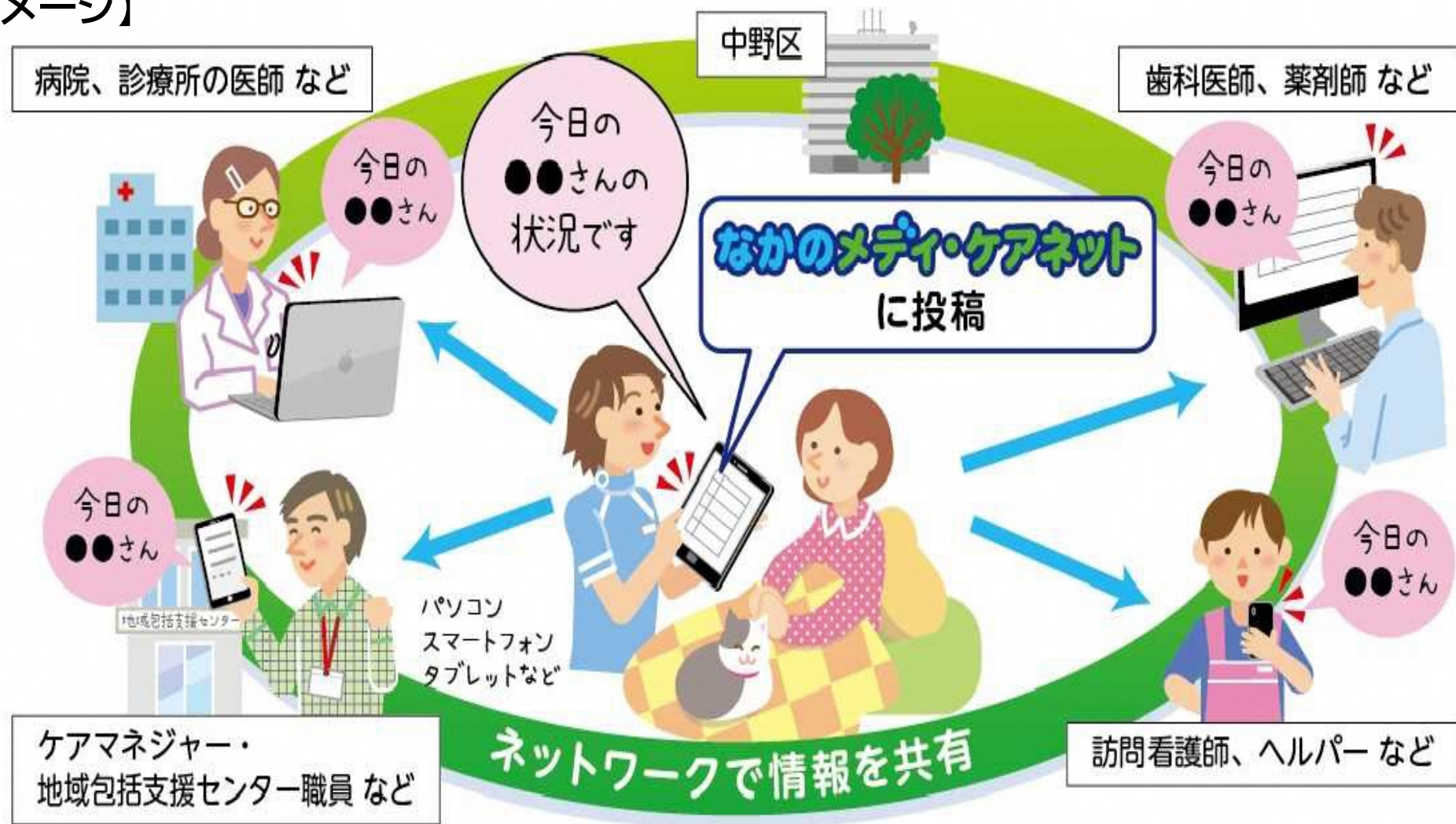
### 3 これまでの医療・介護連携





# 4 「なかのメディ・ケアネット」による医療・介護連携

【イメージ】



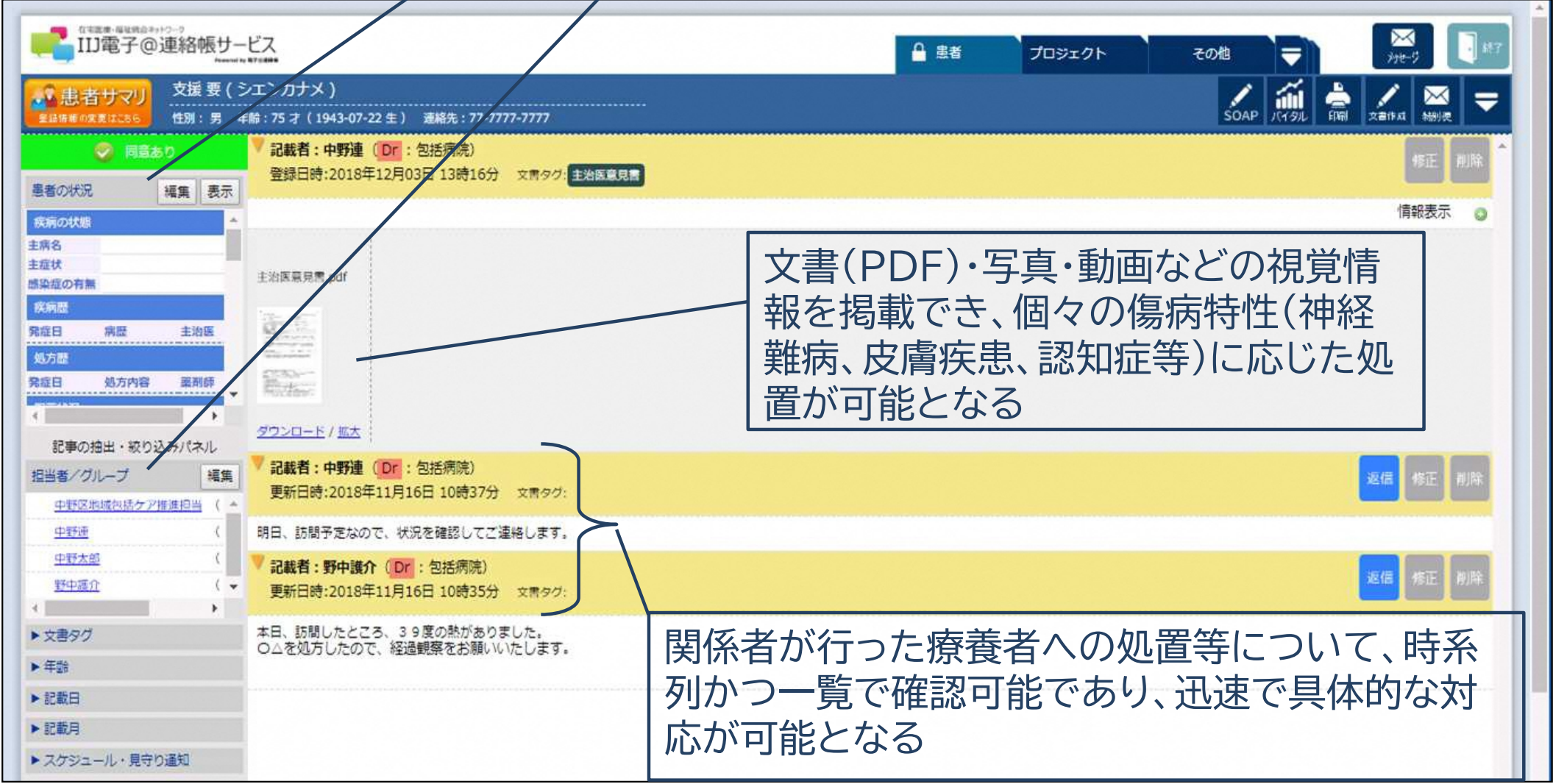
厚生労働省・経済産業省・総務省の各ガイドラインに沿った運用で  
セキュリティ対策は万全

# 5 情報連携機能(在宅療養者に関する情報共有ページ)

【パソコン画面イメージ】

療養者(患者)の  
身体状況等が表  
示される

療養者毎に関係者グループ(情報共有範囲)を設  
定(区はすべてのグループに入る)



文書(PDF)・写真・動画などの視覚情  
報を掲載でき、個々の傷病特性(神経  
難病、皮膚疾患、認知症等)に応じた処  
置が可能となる

記載者: 中野連 (Dr: 包括病院)  
更新日時: 2018年11月16日 10時37分  
文書タグ: 明日、訪問予定なので、状況を確認してご連絡します。  
記載者: 野中謙介 (Dr: 包括病院)  
更新日時: 2018年11月16日 10時35分  
文書タグ: 本日、訪問したところ、39度の熱がありました。○△を処方したので、経過観察をお願いいたします。

関係者が行った療養者への処置等について、時系  
列かつ一覧で確認可能であり、迅速で具体的な対  
応が可能となる

## 6 なかのメディ・ケアネットの運用テスト結果

Q なかのメディ・ケアネットは患者さんのためになると思いますか  
(令和元年5月実施 運用テスト参加者アンケートより)

異常の早期発見や、よりよいサービスに繋がられる

ひとり暮らしの患者さんや状態が変化しやすい患者さんに特に有効

皮膚疾患がある場合に写真を送れるので便利

終末期患者の意思決定(ACP)としての活用

チーム力が増し、  
それが患者さんによって  
より良いサービスの選択に繋がる

ヘルパーなど  
より多くの職種が参加し、  
情報共有できれば有効  
ではないか



# 7 今後の取り組み

## 1 より気軽に、簡単に利用できる工夫

### ◆活用マニュアルの作成と配信

- ◇よく使う操作・使うと便利な機能・・・など具体的な事例
- ◇使用機種別の操作性のつまずきところを集約
- ◇内容は随時更新⇒使い勝手の向上

## 2 利用者拡大

- ◆各関係機関への周知、説明会の実施
- ◆多職種に参加(病院、ヘルパー 等)
- ◆ポータルサイトの充実

## 3 使いたい！と思える機能の検討

- ◆多忙な中でも利用したい！と思える機能の検討
- ◆既存のさまざまなシステム、情報との連動